

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館

教育部長 岩橋平武

整理No.	事務事業名	3か年実施計画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評価	評価内容	方向性	内容
31-001	文化財保護事業	なし	B	<p>文化財保護事業では、「半田市文化財ガイドマップ」が平成24年度の作製から7年が経過し、その間に指定・登録された文化財が多くなったことから、最新の内容にリニューアルした。リニューアルにあたっては、市民がガイドマップを活用して文化財巡りができるよう、モデルコースを案内に盛り込むとともに、半田の文化の特色である山車を知ってもらえるよう水引幕を紹介する内容とした。</p> <p>「文化財よもやま話」を始めとする文化財を理解するための講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止せざるを得なかったが、山車展示等のホームページを改善し、各家庭でも解説を楽しめるよう取り組んだ。</p> <p>文化財の価値や魅力への理解、愛着は、本来は、実際に見て体感し、感動することで育まれるが、コロナの収束が見られない今日にあっては、ホームページの充実は今後も必要である。</p>	改善推進	<p>文化財の保護には、市民が半田の文化に誇りと愛着をもち、自らが文化の担い手であることや、保存伝承の必要性について理解してもらう必要がある。</p> <p>半田の発展の礎となった海運、醸造の歴史や、そこから育まれた山車祭りに代表される各種文化や文化財について、分かりやすく、親しみ易い内容の展示や講座を行うとともに、ホームページを活用した情報発信にも取り組んでいく。</p>
31-002	旧中埜家住宅保存管理事業	なし	A	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、初夏の一般公開や特別公開等、予定していた催しの中止や感染予防策の対応を行う等、想定外の1年となった。しかしながら、全ての催しを中止するのではなく、自粛期間中はイラスト募集や塗り絵配信を行ったり、コロナ禍には外観活用や予約制の小規模見学会を行ったりする等工夫を凝らすことで、当住宅の認知度や保護意識の向上を図ることができた。また、4月には市ホームページに当住宅の専用ページを作成し、年度を通じて情報発信を行った。当住宅を後世へ継承するためには、今後も適切な保存修理等と建物の保存に配慮した活用を効果的且つ継続的に行う必要がある。</p>	改善推進	<p>今後も重要文化財としての価値を後世に向けて維持するため、建物の保存管理を行っていく。あわせて、文化財保護の大切さを人々に伝えるため、特別公開を始めとした公開等活用を行い、「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針(令和2年3月策定)」をもとに、保存活用の充実を図っていく。</p>
31-003	文化財保存修理等補助事業	あり	A	<p>令和2年度は、ユネスコ無形文化遺産で国の重要無形民俗文化財である「亀崎潮干祭の山車行事」を始め、7件(山車関係6件、山車関係以外1件)の文化財について、所有者が行う保存修理等への支援を実施した。特に、山車関係以外の文化財の保護としては、市指定天然記念物「白山神社のクロマツ」は、当初は支援の対象外であったが、枯れが見られたため、文化財保護法、文化財保護条例に基づき、緊急性、必要性の観点から、所有者による原因調査、保護増殖のための調査等への支援を行った。</p> <p>市内には山車以外の文化財も多くあり、保存継承のためには、文化財所有者による保存修理等が確実かつ計画的に行われる必要がある。</p>	改善推進	<p>市内には山車を始めとする文化財が多くある。山車の保存継承は計画的な修理等が行われていることもあり、市による適切な把握も可能であるが、他の文化財については状況の把握が難しく、所有者から相談があったときには、すでに損耗が進行していたり、修理のための資金調達が困難な場合もある。また、白山神社のクロマツのように、所有者による管理が適切であっても損傷し、支援が必要なことも有り得る。</p> <p>文化財が市民の貴重な財産として確実に後世へ保存継承されるよう、補助制度や保存管理手法などについての情報を適切に発信し、所有者による保存修理が定期的に行える環境を整えるとともに、限りある財源を有効に活用した支援となるよう、必要性や緊急性などを考慮していく。</p>

整理No.	事務事業名	3か年実施計画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評価	評価内容	方向性	内容
31-004	博物館一般事務	なし	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月4日～5月31日まで臨時休館となった。6月以降もコロナの影響により客足が戻らず、前年度比4割程度の入館者数減となった。また、博物館講座は全て中止となった。臨時休館中に収蔵資料の整理を行うとともに、夏休み期間中には常設展示や受付前のスペースを利用してミニ展示を開催することで、展示の更新及び集客を図った。	改善推進	博物館講座については、参加人数の制限や内容の見直しにより、コロナ禍でも感染対策を講じながら開催できるよう工夫していく必要がある。また、収蔵資料の整理及び調査研究を積極的に進め、常設展示の内容を更新し充実させることで、さらに魅力ある博物館づくりを推進していく。
31-005	企画展開催事業	あり	B	新型コロナウイルス感染症の影響により「第35回知多工芸展」、企画展「知多半島の化石」、「博物館友の会合同展」が中止となった。コロナ禍で他館から資料の借用ができなくなったため、当館の美術品収蔵資料を活用し、絵画や工芸品の館蔵品展を開催した。また、長年にわたり知多工芸展に出品していただいた作家の遺作展を開催したり、常設展示室や受付前でミニ展示を開催するなど、コロナ禍でも展示を通して地域の自然や歴史、芸術などを紹介した。	改善推進	地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供する。展示の内容を充実させるとともに、講演会や博物館講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、資料の借用が難しい状況においても充実した展示が開催できるよう、収蔵資料の整理・調査研究を積極的に進めていく。
31-006	図書館、博物館管理運営事業	なし	B	施設の管理運営上必要となる保守点検、検査、清掃、庭園維持管理、警備、害虫駆除等を実施した。また、予定していた階段ノンスリップ取替修繕に加え、利用者の安全に関わる壁ひび割れや会議室クロスの修繕等、緊急的な修繕への対応を適切に行った。現施設は、昭和59年に開館しており、建物及び設備の老朽化が進行していることから、今後も修繕を計画的に実施していくが、予測不能な故障等が各所に発生する状態であり、その都度適切な対応が求められる。	改善推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設であり、利用者の安全・安心と郷土の貴重な収蔵資料の保管環境の確保が必要である。今後も、施設の適切な管理、運営のため、特定建築物の定期調査等で指摘を受けた箇所の改修を始め、施設、設備の各種更新、修繕等を適切に実施していく。
31-007	図書館、博物館施設等改修事業	あり	B	令和2年度は、図書館博物館屋上防水改修工事、高圧受変電設備変圧器更新工事、多目的トイレ便器取替等工事等を行った。現施設は昭和59年に開館していることから、建物及び設備の老朽化が進行している。必要な改修を計画的に要望し実施しているものの、修理箇所数は年々増えており費用も高額である。	改善推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設である。今後も適切に運営できるよう、必要な施設等改修を行っていく。利用者の安全・安心と、郷土の貴重な財産である収蔵資料の保管環境を確保するとともに、施設の維持及び延命化を図っていく。
31-008	図書館、博物館管理運営事業（新型コロナウイルス感染症対策）	なし	B	文化庁の補助事業「文化芸術振興費補助金（文化施設の感染防止対策事業）」を活用し、補正予算により、新型コロナウイルス感染症対策を実施した。今回の対策は、国の補正予算に基づく補助事業を活用できたが、時限制度のため、新型コロナウイルス感染症対策が今後も継続して必要となる場合の財源確保が課題である。	現状維持	博物館の使命は市民の文化的教養を高めることであり、(公財)日本博物館協会との連絡を密に、新型コロナウイルス感染症対策を適切に行うことで、継続開館を行う。また、国・県の補助制度の動向に注視し、可能な限り活用する。
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
	政府の緊急事態宣言を受け、5月末までの2か月間を臨時休館とした。その間に施設の異常か所の洗い出しや、来館者への影響が大きく日数の掛かる修繕、ホームページを活用した解説の強化等、普段の業務と並行して行うことが困難なものを集中的に実施した。その後は、博物館が市民の文化的教養を高める施設であり、市民ニーズに応じていく必要もあることから、来館者の感染防止対策に留意したうえで、実施が困難な行事等は中止にしつつも、利用人数を制限するなど可能な限り継続開館に努めた。					
B	博物館の本来の使命は、市民に実物を体感させ、感動させることで市民の文化的教養を高めることであるが、情報化時代の今日においては、事前に情報を得てから来館する市民もあり、通信技術を活用した情報発信も必要である。withコロナの時代においては、この対策が増々求められる。					
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
	令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していた事業の多くが、中止や変更を余儀なくされた。その際にも、単に中止や変更をするのではなく、どうすれば行えるか、どうすれば影響を最小限に抑えられるかを検討するとともに、この機会にしかできないことに取り組むよう指示を行った。この結果、展示や講座では、中止、変更等で資料の借用ができず、目玉としていた内容での開催はできなかったが、収蔵資料を活用したミニ展示に取り組むなどフレキシブルな対応ができていた。また、旧中壱家住宅についても、外観から楽しんでもらえる企画や公開を人数を限定した予約制に変更するなど適切に対応できていた。					
B	全体としては、適切な取り組みが行えたと判断している。					